

栽培漁業とは

我々は今日まで魚食という文化に支えられ、健康的な生活を送ってきました。これも我が国を取りまく豊かな沿岸の水産資源があったからに他なりません。しかし、限りないと思われていたその生産力も近年の漁業の急激な機械化、また沿岸域の海洋汚染などによって脅かされるようになってきました。

このため、これまでのように獲るだけの漁業を続けていたのでは近い将来沿岸漁業は成り立たなくなることも心配されています。そこで、私達はこれからの漁業は積極的に育てて獲る、いわゆる「栽培漁業」を進めていく必要があると考えます。

厳しい自然界の海では、多くの卵が産み出されてふ化しても充分餌にめぐりあえなかったり、他の生物に食べられてしまったりして、大きくなるのはほんの少数だといわれています。私達が行う栽培漁業では、この減耗の多い時期を人間が管理することによって多くの稚仔を育て、海で生きていける能力がついたときに自然の海に適切に放流してやります。

そして、これらの放流された稚仔は自然界で生まれた仲間と共に大きく育ち、いずれは漁業者によって漁獲されて皆さんのもとに送り届けられるというわけです。また放流した稚仔はもちろん、自然の中で生まれた稚仔も、大きくならないうちに獲られてしまっては、せっかくの資源の芽を摘むことになります。従って私達はこのような不合理な漁獲から稚仔を守り、資源を管理していく試みをあわせて行い、栽培漁業をバックアップしていきます。そしてこのような日々の努力が豊かな水産資源を維持し、また活力ある水産業を永続的に続けることにつながればと願っています。

